

1.1.2.6-10

「に」と「で」の使い分け

1.1.2.6-10_「に」と「で」の使い分け_ナレッジ

「場所」の後ろに使われる助詞「に」と「で」の違いはなに？

まずは助詞「に」と「で」の用法を整理しましょう。

・「に」の用法

①持続行為の行われる場所を示します。

- ・存在性(持続行為)の動詞といっしょに使います。

例) 会議室にいる。書類が机にある。

②活動(動作)の向かう先を示します。

- i) 目的語が「場所」の場合、「行為」のおこなわれる先の所在地(目的地)を表す場合に使います。

「行為」の結果がそこにおいて実現(完結)することを表します。

例) 日本に行く。書類をキャビネットに保管する。

- ii) 目的語が「場所」以外の場合、活動(動作)の向かう先の目的(用途)や変化(結果)を表す場合に使います。

例) 買い物に行く。氷が溶けて水になる。

③時間を示します。 例) 土曜日にデートする。

・「で」の用法

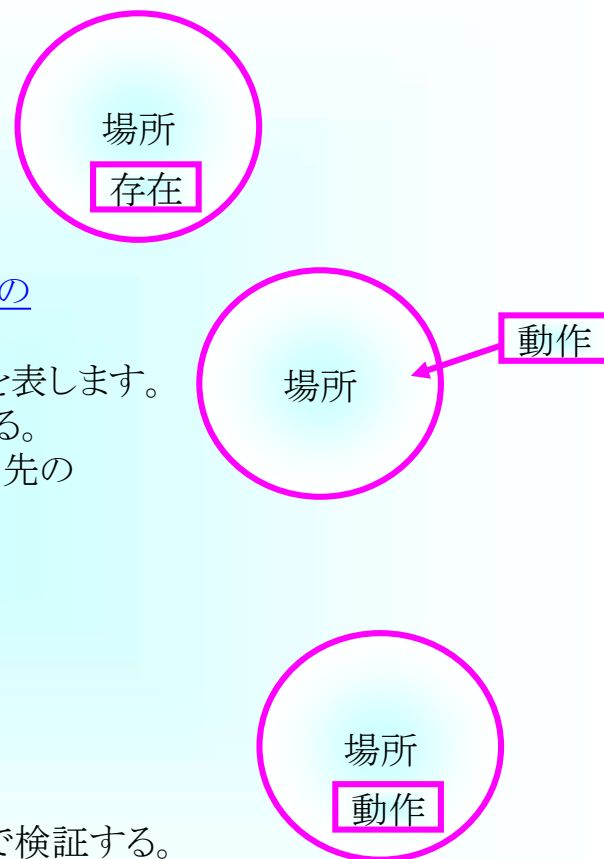
①活動(動作)する場所を示します。

- ・活動(動作)性の動詞といっしょに使います。

(例文) ラーメン屋で食べる。公園で遊ぶ。立川で検証する。

②手段・方法・材料を示します。 例文) 日本語で話す。

③原因を表します。 例文) 事故で入院する。



1.1.2.6-10_「に」と「で」の使い分け_ナレッジ



使い分けの具体例

使い分けのポイントは、いっしょに使う動詞の特性＜持続性(持続行為)か活動(動作)性か＞を理解することです。

○「教室【に】花があります。」
×「教室【で】花があります。」

⇒

持続行為(あります)のおこなわれる場所(教室)を示すため「に」を使います。「に」の用法①

×「教室【に】試験があります。」
○「教室【で】試験があります。」

⇒

活動する(試験がある)場所(教室)を示すため「で」を使います。「で」の用法①



使い分けの具体例(応用編①)

○「椅子【に】座る。」
×「椅子【で】座る。」

⇒

活動の向かう先(椅子)を示すために「に」を使います。「に」の用法②

※椅子はベッドなどと比べて小さな家具なので、その中で活動することはできない。(場所としての意味が薄い。道具(家具)としての意味が強い。)

よって、活動性の動詞(座る)を用いているが、「で」の用法①は使わない。

1.1.2.6-10_「に」と「で」の使い分け_ナレッジ



使い分けの具体例(応用編②)

以下の文例は一見、紛らわしいですね。どちらも間違いではありません。「に」と「で」それぞれの用法の違いを理解しましょう。

- ①河原【に】石を投げる。
- ②河原【で】石を投げる。

⇒

- ①活動(投げる)の向かう先(河原)を示す。(「に」の用法②)
- ②活動(投げる)する場所(河原)を示す。(「で」の用法①)

- ①田舎【に】暮らす。
- ②田舎【で】暮らす。

⇒

- ①活動(暮らす)の向かう先(田舎)を示す。(「に」の用法②)
 - ②活動(暮らす)する場所(田舎)を示す。(「で」の用法①)
- ⇒一般的には【で】を利用することが多い。

- ①ソファ【に】寝た。
- ②ソファ【で】寝た。

⇒

- ①活動(寝た)の向かう先(ソファ)を示す。また、ソファは道具(家具)としての目的語で利用されている。(「に」の用法② i)、ii)の複合)
 - ②活動(寝た)する場所(ソファ)を示す。また、手段・方法・材料(ソファ)を示す。(「で」の用法①②の複合)
- ⇒一般的には【で】を利用することが多い。